



### 1 学習のねらい

話に対する応じ方の大切さを理解し、相手の言葉を受けて言葉を返したり、質問をしたりすることができる。

### 2 番組活用にあたって

会話のキャッチボールが上手な人と話をすると、時間がたつのを忘れてついつい話し込んでしまいます。こういう人は、相手の話の受け止め方が上手なのです。

グループ学習での子どもたちの会話の様子を見ると、「はい、〇〇さん」「はい、私は〇〇〇とと思いました」「次、〇〇さん」「はい、私は〇〇〇とと思いました。」というように話がつながらずに、出し合いをして終わってしまうことがよくあります。相手の話の受け止め方が分からないのです。

番組では、2つの提案をしています。その一つが「しりとり法則」です。相手の言葉を受け止めて返す方法です。そしてもう一つが、「どうして?の法則」です。質問をすることで、話が広がっていきます。番組では、サトルと伝じろうのやりとりを使って、この2つの法則を視覚的に捉えられるように工夫してあります。これを意識することで、会話のキャッチボールが格段に上達するはずですよ。

### 3 指導の流れ

#### ① 自分たちの対話の問題点を見つけよう。

1. 二人一組になって、「昨日の出来事」について話してみよう。
  - ・話し手と聞き手になって、対話する。(時間で話し手と聞き手を交代する)
2. 対話して気づいたことを発表する。
  - ・楽しそうに聞いてくれて話しやすかった。
  - ・話すことがなくて困った。話が途切れて、しらけた。あんまり話してくれなかった。



#### ② 楽しく会話を続けるコツを知りたいな。番組を見てみよう！

1. 番組を視聴する。
2. 「しりとり法則」のやり方を理解する。
  - ・scene05 scene06を使って、相手の言葉をどこを拾っているかを見つける。
  - ・言葉の拾い方については、scene06の方が日常生活で使えるので、こちらを参考にするとよい。
3. 「どうして?の法則」で、どのような言葉が使われているのかを見つける。
  - ・「どうして」「どんなふうに」「どうやって」という質問の言葉に気づく。



#### ③ 「しりとり法則」「どうして?の法則」を使って、友達と対話してみよう。

1. 話題を提示して、二人一組になって対話をする。  
(話題を指定してもよいし、話し始めの言葉を指定してもよい。  
話題例 「私の好きなもの」「面白いテレビ番組」「最近ハマっていること」など  
話し始めの言葉の例 「伝じろうくんは・・・だね」「今日の授業は・・・」など)
2. 上手に対話をしている二人組に、全体の場で対話して見せてもらう。  
(ビデオなどで対話の様子を撮り、テレビや電子黒板で映して見せると効果的である。)



#### ④ 会話を続けるためには、どうしたらいいのだろう。

- ・相手の話の内容をしっかりと聞かないといけない。
- ・質問を考えながら聞くと、相手の話がよく分かるようになった。